

「どこかの誰かの為にだけでなく」

亙理町立吉田中学校 3年 丸子 ひかり

私の住んでいる地域には、「防災公園」とよばれる場所があります。普段は誰でも利用することができる憩いの場として利用されている公園ですが、「避難丘」という人工的に造られた丘があり、地震や津波による災害時には、地域住民が避難できる高台の役割も果たします。私も家族と犬の散歩で丘に上がったり、友達と自転車で訪れてベンチで休憩したりして、お気に入りの場所として何時も利用しています。

この防災公園は、震災によって住むことができなくなってしまった地域の土地を再活用して造られた場所です。津波の甚大な被害にあった沿岸の地域には、点々とピラミッドのような形をした丘が見え、そこが避難の目印になっています。これらは、「震災後に国民の税金で造られたものだ」と、家族から聞かされました。私はこの公園を利用していないまたは、公園の存在を知らない人たちの税金を含めて整備されていたことを不図考えると私はなぜだか申し訳ない気持ちになりました。その理由は、自分のような利用者や地域住民の力だけで整備しようと思ってもできるわけではないからです。ましてや復興・復旧を最優先にお金が使われ、また、防災や減災などの日々のくらし安定のために整備を進めるには、多くの予算や労力がかかります。亙理町は津波の被害を受け、いつしか十三年以上が経ちましたが、立ち入りが制限されて使えなくなってしまった土地に、もう一度人々が集い、そして災害の時には命を守る場所が再整備されたことは、この地域にくらす私たちにとって、豊かで、とても価値のあることだと思います。

今回は、私が住む地域が税金の恩恵をうけましたが、災害はどこで発生するかは分かりませんし、困っている人たちがいれば、速やかに助けが必要になります。自助・共助で補える部分もありますが、適切に税が使われる「公助」が必要ではないかと思います。私たちの納税は、単なる義務ではなく、間接的に人の命を守ることにつながることに気付かされました。

日本は災害大国であり、今年も台風や豪雨で多くの被害や犠牲が出たのは記憶に新しいと思います。そんな時、日本中で今困っている人たちに対して、あるいは、今後予想される災害に対して、本当に苦しんでいる人たちのために、あらゆる税の仕組みが備わっていることを知りました。しっかりと税を納める義務を果たすことで、助けを必要としている人たちを救うことができます。また、その人たちが納税をしたおかげで、私たちの生活が保障されていることにもなります。税の仕組みによって、国民一人一人が互いに支えられていることに感謝をしつつ、私たちの生活をより豊かにしてくれるものであることを信じて私はこれからも「防災公園」を利用しようと思います。